



東北学院大学キリスト教文化研究所 研究フォーラム 2018

ロマネスクから ゴシックへ

2018 (平成 30) 年
11/24^(土)
13:30 ~ 16:00

見えない[●]神から見える[●]神へ

パリ郊外にあるサン＝ドニ修道院付属聖堂の西正面、そして東側祭室部分は1140年代に改築されたものであり、いわゆる「ゴシック建築」の先駆けとして名高い。この様式には様々な特徴が挙げられるが、その一つに光の積極的な取り入れがある。これは単なる建築の形態的特徴であるだけでなく、光に対する神学的思想を背景としたものである。すなわち聖堂の改築作業を指揮したサン＝ドニ修道院大修道院長シュジェールは、その文書において光を称揚し、人間の精神をイエス・キリストのもとへと上昇せしめるものであると考えたのである。そこで本講座では、彼の記述と当時の思想的文脈を基に、聖堂に溢れる光のキリスト教的意味を探究する。

会場 | 東北学院大学土樋キャンパス 8号館押川記念ホール

駐車場がございませんのでお車でのご来場はご遠慮ください。

講演

「神が見えるという逆説」

^{すずき} 鐸木 ^{みちたか} 道剛 本学文学部教授

参加無料

申込不要

直接会場にお越しください。

「シュジェールの光とゴシックの光：なぜサン＝ドニは「輝いた」のか」

^{さかた} 坂田 ^{ななえ} 奈々絵 氏 清泉女子大学講師

鐸木道剛プロフィール／

1950年大阪生まれ、東京大学文学部卒。ユーゴスラビア政府給付留学生としてベオグラード大学に留学。岡山大学教授を経て、2016年より東北学院大学教授。専門は美術史、とくにビザンティンとロシアと日本のイコン。主な著書は『イコンービザンティン世界からロシア、日本へ』（毎日新聞社、1993年）、『山下りん研究』（岡山大学文学部叢書、2013年）、また『ヒランダル修道院』（翻訳、恒文社、1995年）。



坂田奈々絵 氏プロフィール／

1987年生まれ。2015年に上智大学神学研究科博士後期課程修了。日本学術振興会特別研究員（PD）を経て、2018年より清泉女子大学専任講師。主な論文に「サン＝ドニのシュジェにおける祭儀と装飾の連関について——クレルヴォーのベルナルとの対比を中心に——」（『美学』66号、2015年）、「涙を流す修道士たち」（『善美なる神への愛の諸相』教友社、2016年）他。



主催 東北学院大学 キリスト教文化研究所

協賛 東北学院大学研究ブランディング事業「東北における神学・人文学の研究拠点の整備事業」

問い合わせ先 | 東北学院大学 研究機関事務課 | TEL:022-264-6401 FAX:022-264-6530